

河川の連携・地域をつなぐ明日への水 思川開発

思川だより

独立行政法人水資源機構 思川開発建設所



新年のご挨拶

独立行政法人水資源機構 思川開発建設所長 森田 義則



新年あけましておめでとうございます。

皆様方には日頃より思川開発事業の推進につきましてご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年は、南摩ダム関係者の皆様方とは生活再建に向けた補償契約を鋭意進め、西沢集団移転地(光ヶ丘団地)、上南摩集団移転地(思い川団地)への移転及び個人移転の方々の移転をほぼ完了することができました。また、ダムサイト直下流の室瀬地区につきましては、昨年11月に室瀬協議会より調査立入りの了解を頂き、調査に着手することができました。

また、事業に対してご理解が得られていない方に対してもご理解とご協力が得られるよう、努めて参ります。さらに、付替県道予定地である杓子沢地区につきましては、用地調査のご了解を、工事用道路予定地である昭和地区につきましては、技術調査のご了解を頂き、それぞれ調査に着手することができました。

一方、導水路、取水・放流工の関係地区につきまし

ては、先ず、取水・導水地区の皆様方の事業に対する不安を解消することが不可欠と考えております。そのため、河川水を利用している皆様方にご迷惑をお掛けしないこと、黒川の水量が不足するときには南摩ダムから水を補給すること等につきまして、引き続き地区の皆様方に鋭意説明を行うことにより不安を解消して頂き、事業にご理解いただけますよう努力して参ります。

独立行政法人水資源機構が発足して、一年余りが経過いたしました。引き続き「安全で良質な水を安定して安くお届けする」ことを経営理念として掲げ、さらなるコスト縮減、環境及び水質保全、地域との連携に努め、お客様であるユーザーの皆様方、国民の皆様方のニーズに応えて参ります。

今後とも、地権者の皆様方をはじめ地元の関係団体、地域住民の皆様方、関係行政機関、ひいてはユーザーや国民の皆様方のご理解とご協力をお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。



平成17事業年度予算概算額の決定と 思川開発事業の進捗状況について

思川開発事業の平成 17 事業年度予算概算決定額が 68 億 1 千万円と決定しました。

思川開発事業は、平成 13 年 12 月水没損失補償基準締結後、生活再建を最優先に南摩ダム水没予定地の用地取得に取り組んでいます。平成 16 年 12 月末現在の進捗状況は、水没移転契約 97%で、用地取得面積は 65%の進捗率です。

平成 17 年度の予算の内容は、用地先行取得償還費として約 51 億円その他、南摩ダム及び導水路関係の測量調査・設計、環境調査並びに水没地及び付替県道の用地取得等の費用となります。また、新規に付替県道工事を実施する予定です。

今後は詳細な実施内容を作成し、国土交通省の承認を得て平成 17 年度予算を執行することとなります。



「森林環境改善学習会」開催される

平成 16 年 11 月 10 日から 12 日の 3 日間で、独立行政法人水資源機構本社環境室主導のもと、水資源機構に勤務する関東管内の職員を対象として、「森林環境改善学習会」が思川開発建設所の事務所、南摩ダムの建設に伴い水没する旧梶又小学校及びその周辺を主な会場として開催されました。参加者は 20 名で当建設所からも 6 名参加しました。

この学習会は、水源地域の手入れのなされていない鬱蒼とした人工林の間伐、枝打ち及び伐採跡地や荒れ地への植樹により植生改善を図り、多様な生態系を維持できる森林環境の改善に取り組む意識の啓発と実践的な技能を身につけることを目的に開催されたものです。

学習会は、森林環境の改善と生物の多様性についての講義、伐木等に係る特別教育が行われました。



真剣に受講する参加者たち

伐木等に係る特別教育は、まず、学科教育として、伐木作業に関する知識、振動障害及びその予防に関する知識、関係法令等、チェーンソーに関する知識を学び、実技教育として、チェーンソーの操作、チェーンソーの点検整備、伐木の方法を学びました。

実技教育は、旧梶又小学校及び隣接する水没地内の杉林で行われ、まず、チェーンソーの点検整備として、「目立て」と呼ばれるチェーンソーの刃の手入れを丸ヤスリを使い行いました。次に、チェーンソーの操作ですが、これは、すでに伐倒された木を使って、「玉切り」(倒した樹木を必要な長さ切る)を行いました。最後に、伐木の方法ですが、まず、第一に「木の神様」に木を切ることを許してもらい、また、作業が安全に終わることを願って神事が行われ、その後に伐木の作業に入りました。学



玉切りの様子

びましたが、実際に作業を行ってみると、なかなかうまくいかず、悪戦苦闘しながら、全員、木を切り倒すことができました。

全ての講習の終了後、講師(林業・木材製造業労働災害防止協会栃木県支部)の方から修了証とチェーンソー使用手帳が交付され、「森林環境改善学習会」はケガ人もなく無事に終了しました。

鹿沼産業交流フェアへの出展のご報告

去る11月6日と7日の2日間、鹿沼市商工会議所催事ホール及び周辺で開催されました鹿沼産業交流フェアに、昨年に引き続き出展いたしましたのでご報告させていただきます。

当日は、秋晴れのすばらしい天候の中、予定どおりに開催され、来賓の鹿沼市長をはじめとする方々のくす玉割りを合図にオープンいたしました。

鹿沼市の特産品を紹介するコーナーをはじめ、特産の一つであるソバ打ちの実演なども行われ好評を博していました。機構の展示ブースでは、水の大切さや思川開発事業の目的や内容などを広く知っていただくためのパネル展示を行いました。

また、クイズに答えていただくことにより一層の理解を深めていただけるような取り組みも行い、予定していた時間より早く用紙がなくなるほど盛況でした。

今後も引き続きこのような機会を利用し、皆様に事業についてお知らせして参りますのでよろしくお願いいたします。



クイズの回答風景

思川開発建設所内 フォトコンテスト(第2回)

前号に引き続き第二回所内フォトコンテストを実施したのでその入賞作品を掲載します。



グランプリ「南摩地区の朝」
第一調査設計課 國居



優秀賞「昼もやかかる黒川」
第三用地課 荒木



優秀賞「豊かな水源」
経理課 小田

水資源の びっくり！ まとめ知識



その 「水資源開発基本計画」

「水資源開発基本計画」通称フルプランは、水資源開発促進法に基づき水資源開発水系（フルプラン地域）に係る地域について策定する、水資源の総合的な開発等の基本となる計画のことです。

水資源開発水系とは、産業の発展や人口の増加等に伴い緊急に広域的な用水対策を実施する必要がある地域について指定される水系のことで、総人口の約51%、工業出荷額の約48%が集中しています。

利根川・荒川水系では、平成16年6月末までにダム等の34施設が完了し、その開発水量は供給目標量の約66%に相当する約170.2m³/秒となっています。現在も供給目標量の開発に向け思川開発事業を含めた

12事業が建設中となっています。（戸倉ダム、東大芦川ダムは中止が決定）

しかし、現在利根川・荒川水系では、関係都府県の将来の水需給の見通しについて調査を行っているところであり、この結果を受けてフルプランを改定する予定です。

参考文献：平成16年版 日本の水資源



図：水資源開発水系に指定されている水系（国土交通省HP）

事業の最新情報を皆様にお伝えします

おもいがわトピックス

南摩ダム着工に向けて

南摩ダム本体着工には遮断される県道上久我郡賀栃木線の迂回路（付替県道）の建設やダム本体に通ずる工事用道路の建設が最初に必要となります。

関係者の方々の協力を頂きこれらの建設に向けた技術的調査や用地関連調査に入る事が出来るようになりました。

水没地内の用地取得に引き続き、新たに南摩ダム着工に向けて大きく前進したと言えます。今後とも関係者の方々のご協力を頂きながら早期のダム着工を目指していきます。

編集 後記

新年あけましておめでとうございます。今年より紙面構成を一新しました。皆様に親しまれる広報誌を目指して今年も頑張っ参りますのでよろしくお願ひします。



編集・発行所



独立行政法人 水資源機構

思川開発建設所

〒320-0065 宇都宮市駒生町中丸3368

Tel(028)622-8941 Fax(028)622-8945

ホームページ <http://www.water.go.jp/kanto/omoigawa/index.html>

鹿沼事務所

〒322-0346 鹿沼市上南摩187-18

Tel(0289)77-3888 Fax(0289)77-3890